

SSH 講演会（12月6日）防災科学技術研究所

二学年

『積乱雲を理解すること』

主幹研究員 大東忠保

『竜巻の発生メカニズムと避難の考え方』

主任研究員 鈴木真一

この講演会の目的は、気象に対する興味・関心を高め、最新の研究成果を知る。そのうえで、一人一人に自分事としての防災意識を高める契機とする。また、探究活動における問いの立て方と課題解決方法について学ぶ。また、研究者の実務の一端を見せていただくことで『仮説→検証→考察』という探究的アプローチが、私たちの生活にどのように生きるか実例を聞くことで研究活動の動機づけをはかる。



「竜巻が来たら逃げて下さい」→「正しい」けれども知識がないと難しい。
先生から生徒に「竜巻の大きさはどれくらい？どこに出来るの？」質問がどんどん出てきます。
「竜巻を見つけられる？見つけてからどれくらいの時間で自分のところまで来る？」
先生の話に引き込まれていきます。考えて、質問して、納得する参加型の講演会が好評でした。



積乱雲を見つけ、その中の竜巻から数分で逃げないといけないとは知りませんでした。
台風、積乱雲、竜巻の空間スケールと時間スケールにおける密接な関係を教わりました。
講演終了後、防災科研が用意したアンケートを実施しました（2年生）。
今回の講演の『仮説→検証→考察』という探究的アプローチに非常に良い刺激を受けました。